

油彩・カンヴァス 明治二十五年（一八九二）
本紙八九・三×一四四・二



田子の浦から望む富士山は、今日に至るまでたびたび作品の題材となり、もつとも好まれた富士の姿である。本作は、駿河湾を挟んで興津近辺から富士山を望む構図をとる。前景の波が打ち寄せる浜辺から、淡い紅色の光をうけ雲をまとう富士や遠景の山々へと広がる量感豊かな空間には、作者の五姓田義松（一八五五〜一九一五）が欧米で学んだ油彩技法が存分に発揮されている。浜辺には精緻な筆致で人物が描きこまれており、漁村の営みが垣間見られるのも

面白い。また、画面左下部には電信柱が描かれるなど、明治時代当時の田子の浦の風景を伝えている。画家の確かな描写力と丁寧な制作活動を示す優品と言えよう。

義松は、宮内省、元老院、警視局、外務省、内務省などから依頼をうけて制作活動を行い、明治時代の宮廷画家とでも言うべき存在であった。明治二十五年には、宮内省からの依頼で、本作と「加奈陀ヴィクトリア港景図」（当館蔵）を制作している。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

富士 ―山を写し、山に想う―

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 46

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年三月二十二日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections